



目指す学校教育の実現に向けた具体的取り組み

1 学びをつなぐ

「小中一貫教育の推進」
「義務教育学校の設置」

2 子ども主体の学び

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」
「特別支援教育の推進」

3 安全・安心な居場所づくり

「不登校児童生徒への支援」
「教育相談の充実」
「子どもの居場所」

4 家庭・地域とともに

「コミュニティ・スクールの活性化」
「市立柏高等学校の魅力化」

5 生き生きと働き 学び続ける教職員

「子どもと向き合う時間の確保」
「教職員の資質能力向上」

6 学びを支える教育環境

「将来の学校のあり方」
「学校施設・設備の適切な維持管理」



1-1 学びをつなぐ 「小中一貫教育の推進」

1 学びをつなぐ
2 子ども主体の学び
3 安全・安心な居場所づくり
4 家庭・地域とともに
5 生き生きと働き学び続ける教職員
6 学びを支える教育環境

柏市の現状・取り組み

- 柏市小中学校連携教育ガイドライン策定（H24）
- 幼保こ小，小中連携教育
- 独自に小中連携を行っている中学校区もあるが，小中連携教育の取組については差がある。（挨拶運動やオンラインを活用した交流，児童会生徒会の連携など）

方向性

- ①市内全校で小中一貫教育を推進。義務教育9年間を通して**系統性，連続性のある教育活動**を実施
- ②小1プロブレムや小中ギャップ，心身発達の早期化に対応

具体的対応

- 令和6年度より小中一貫教育を推進する協力校を指定し，乗り入れ授業や行事での交流，教職員合同研修等に取り組む
- 令和7年度以降，小中一貫教育に向けて全市で取り組みを進めていく
- 義務教育学校の設置検討（必要な条件が整った場合）

期待される効果

- 義務教育9年間を支える，系統性・連続性のあるきめ細やかな支援・指導
- 幼保こ～小学校～中学校への円滑な接続による，小1プロブレム，小中ギャップの解消・緩和



2-1 子ども主体の学び「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

1 学びをつなぐ

2 子ども主体の学び

3 安全・安心な居場所づくり

4 家庭・地域とともに

5 生き生きと働き学び続ける教職員

6 学びを支える教育環境

柏市の現状・取り組み

- **先進的な一人一台端末の活用**
 - ・一人一台端末の活用「柏市GIGAスクール」段階的に基本的なスキルを身に付けている
 - ・令和3年度Step0「いつでもちょこっと使う」～令和6年度Step3「教科の学びをつなぐ」
- 柏市学力・学習状況調査の実施と分析，研修会の実施
- **教職員の指導力向上**に向けた研修の充実
- 理科支援員，外国語授業支援員，学校図書館指導員，算数支援教員の配置等

方向性

- ① **学び続ける力**（アウトプット，主体性，多様性を重視した学び）を日常の授業で育成
- ② 認知能力（基礎的な知識技能），**非認知能力（4つのC）**の育成

具体的対応

- 対話を重視する授業，自己選択・自己決定する授業，多様な人と学び合う授業の推進
- **一人一台端末を活用**し，個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進しながら教科の学びを深め，つなぐ
- 主体性を育てる学びを行うための学校伴走支援
- 新しい学びによる子どもの変化の検証（生活意識調査・**「4つのC」の活用**）

期待される効果

- 児童生徒の個性や能力に応じて，全ての子どもたちの**可能性を最大限に引き出す**
- **ICTの利活用**により，情報活用能力を育成し，多様な人々と協働しながら**自ら学ぶ力**を身に付ける



2-2 子ども主体の学び 「特別支援教育の推進」

1 学びをつなぐ

2 子ども主体の学び

3 安全・安心な居場所づくり

4 家庭・地域とともに

5 生き生きと働き学び続ける教職員

6 学びを支える教育環境

柏市の現状・取り組み

- 特別支援学級の児童生徒数の増加（知的障害：1.5倍，**自閉症・情緒障害：約3.3倍**）* H27→R6
- 教育支援員，個別支援教員，医療的ケア看護師の配置等
- 通級指導教室の設置と**特別支援学校のセンター的機能の活用**

方向性

- ①「誰一人取り残さない」教育の充実
- ②**インクルーシブ教育システム**の構築
- ③**教員の専門性及び指導力の向上**
- ④一人一人のニーズに応じた就学先の決定

具体的対応

- 特別支援学級担当者向けの研修の実施，**全教職員対象の研修の充実**（管理職含む）
- 児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた段階的かつ慎重な就学相談体制の確立
- 教育支援員，個別支援教員のさらなる拡充**と，必要十分な施設の確保
- 柏市教育委員会作成のガイドブックの活用
- 特別支援教育免許状取得率の向上
- 医療的ケア児への支援体制の充実

期待される効果

- 一人一人のニーズに応じた，子どもの**「強み」を生かし，伸ばす**特別支援教育
- 多様な学びの場の充実により，**「いつでも」「どこでも」「だれにでも」**，必要な支援が提供できる体制づくり



3-1 安全・安心な居場所づくり 「不登校児童生徒への支援」

1 学びをつなぐ

2 子ども主体の学び

3 安全・安心な居場所づくり

4 家庭・地域とともに

5 生き生きと働き学び続ける教職員

6 学びを支える教育環境

柏市の現状・取り組み

- 不登校児童生徒の増加（H27からR5で約4.2倍増） 小：347人，中589人， **計936人**
- 教育支援センターの設置（市内5か所）
- 個別支援教員の配置（市内全中学校）

方向性

- ①教育相談体制を整え，不登校児童生徒に対応できる環境を整備し，**学びの選択肢（居場所）を確保**する
- ②子どもたちが**安心して自発的に**行きたくなるような学校づくりを進める

具体的対応

- **教育支援センターの拡充**と支援内容の充実
- 小中連携による，個別支援教員の中学校区での巡回支援
- 小学校における**校内教育支援センターの段階的な整備**
- 学びの多様化学校の調査・研究
- 学び直しの機会の調査・研究
- 学校運営協議会等，地域による不登校支援の検討
- 小中一貫教育の推進による切れ目ない支援と小中ギャップの緩和
- **SC，SSW**(*参考資料P12参照)，個別支援教員等を活用し，不登校児童生徒と学校がつながる体制作りを構築

期待される効果

- 児童生徒**一人一人のニーズに合わせた居場所づくり**により，**安心感・充実感**が得られ，不登校児童生徒の**将来的な社会的自立**が促される



5-1 生き生きと働き 学び続ける教職員 「子どもと向き合う時間の確保」

1 学びをつなぐ

2 子ども主体の学び

3 安全・安心な居場所づくり

4 家庭・地域とともに

5 生き生きと働き 学び続ける教職員

6 学びを支える教育環境

柏市の現状・取り組み

- 時間外在校等時間は減少傾向にあるものの、全体の約4割が月45時間を超えている（管理職も同様）
- 7割近くの教職員が、勤務時間内に「授業準備」「自己研鑽」等ができていないと感じている
- 教職員の人員不足，管理職の負担増，教職員が担う業務が多様化
- 教育課程，日課表の見直し，行事の見直し
- ICT環境の整備，校務DXの推進

方向性

- ① 子どもと向き合う時間を確保
- ② **働きがい**のある職場環境づくり
- ③ 教職員で担う**業務の明確化**

具体的対応

- **人材の確保**（会計年度任用職員等の**多様な配置**）
- 部活動の**地域移行**の推進，地域学校協働活動の推進，**外部委託やボランティアの登用**
- 教職員のメンタルケア，職員のフォロー体制の構築
- 「学校における働き方改革推進プラン」の策定・活用
- 給食費の公会計化

期待される効果

- **子どものために向き合う時間を確保**し，教材研究や児童生徒理解が深まる
- 働き方改革が進み，教職員の**働きがいを高める**とともに，業務負担軽減につながる